

はぐくむ

66号

平成30年12月発行

青少年の主張宮崎県大会

主催/宮崎県青少年育成県民会議・国立青少年教育振興機構 共催/宮崎県・宮崎県教育委員会



「青少年の主張宮崎県大会」の少年の部は、「少年の主張全国大会」の予選会を兼ねており、全都道府県で実施されています。各都道府県大会の代表は、全国大会での表彰式（東京都）に出席します。また、その中から12名が全国大会での発表者に選出されます。全国国大会での発表者で希望する方は、翌年の7月～8月、約一週間ミクロネシアへの海外旅行に派遣されることになります。来年度も県内の多くの中学生・高校生の主張作文の応募を期待しています。

今年の「青少年の主張宮崎県大会」は8月17日（金）に実施しました。作文応募総数は少年の部（中学生）1,424点、青年の部（高校生）7点で、作文審査の結果、写真の14名の皆さんがあげました。自分の故郷のこと、普段考えていることや学んだこと、自分の人生や夢、故郷そして宮崎の将来など、中学生・高校生の感動的、そして頼もしく素晴らしい発表が聞かれました。

「青少年の主張宮崎県大会」受賞者

	賞	氏名	学校名	学年	発表テーマ
少年の部	最優秀賞	お 小 川 ま 磨 美	宮崎学園中学校	3	ポジティブに生きて
	優秀賞	さ 佐 藤 ま さ と 摩裟斗	高千穂町立高千穂中学校	3	伝統を受け継ぐために
		まき 牧 ひ な こ 純奈子	西米良村立西米良中学校	3	わたくしたち 西米良村が持っているもの
	優良賞	ふく 福 ど め か の 夏 野	綾町立綾中学校	3	隔たりのない世界を目指して
		お 小 倉 はるあ	宮崎市立広瀬中学校	3	前を向く理由
		あり 有 馬 たい せい 大 成	えびの市立飯野中学校	3	ブランドのえびの産ヒノヒカリ
		まつ 松 ざ き 奈 な 々	延岡市立三川内中学校	3	ホタルの輝きをもう一度
		むか 向 い じゅ 樹 な 菜	宮崎市立佐土原中学校	3	父の教え
		はら 原 だ り 梨 さ 沙	宮崎市立大塚中学校	2	18歳成人について
		こう 高 づ ま 妻 とう 透 ご 伍	宮崎市立大淀中学校	2	簡単に捨てられていく食べ物
青年の部	最優秀賞	なが 長 い 井 こう 航 き 希	県立宮崎農業高等学校	2	笑顔を届けるトマト農家
	優秀賞	まつ 松 う ら 浦 み 未 く 空	宮崎学園高等学校	1	動物が幸せに暮らせる日本へ
	優良賞	ひ 日 た か 高 み 美 ゆ 優	鵬翔高等学校	2	未来を見据えた木を育てる
		さ さ き 佐々木 こ と 琴 え 恵	県立宮崎工業高等学校	1	差別のない社会へ

「はぐくむ」は宮崎県青少年育成県民会議の広報紙です。

〒880-8501 宮崎市橋通東2丁目10番1号 県庁福祉保健部 こども家庭課内

電話0985-26-7041 FAX0985-26-3416

Eメール: miyazaki-sik@ab.auone-net.jp



平成30年度「青少年の主張宮崎県大会」の少年の部（中学生）及び青年の部（高校生）の最優秀賞作文です。自分の様々な体験から得た考え方や将来の夢に向かって胸が膨らむ様子などが述べられています。中学生の小川磨美さん、高校生の長井航希さん、それぞれ前向きでとても素晴らしい内容の作文です。紙面の都合でここに載せることができなかった他の作文も同世代の皆さんや大人の方々に“元気”と“希望”をもらえるものばかりでした。

【少年の部 最優秀賞】



ポジティブに生きて

おがわ まみ
宮崎学園中学校 3年 小川 磨美

「大変だったね。どんな感じだったの？」「辛かったね。」私がある体験を友達に伝えると、皆がこう言って心配してくれます。確かに私はその出来事が起きて、被害も受けたし、学校にも少しの間行けなくなりました。しかし、思うのです。「私は、命があつただけでも幸せだ。」と。私が体験した出来事は、東日本大震災です。

ここ、宮崎もいすれ起こるであろう南海トラフ巨大地震によって大きな被害を受けると言われています。地震が起った時、もしあなたが生き残れたとしたら、「大きな被害を受けて大変だった。」と思いますか？それとも、「亡くなった方々もいるのだから、生きていられて幸せだ。」と思いますか？私なら、後者を選びます。それは、自分自身が東日本大震災で生き残れた側の気持ちを経験したからです。大震災で亡くなられた方々は、私が当時住んでいた福島県だけでも1614人もいらっしゃいます。その中にはまだ小さく私と同学年の子もいたでしょう。まだ生きたいと思いながら息絶えた方もいたでしょう。私はその人達の分まで頑張って生きたいのです。だから、私は、「私の震災」をポジティブに考えたいのです。

もちろん、初めからそう思えたわけではありません。きっかけとなった体験が2つあります。一つ目は剣道です。当時私は小学1年生で、大震災の前日に剣道スポーツ少年団の見学に行きました。剣道に挑戦したいと思って入団を決意した時、大震災が発生しました。剣道場は壊れて使えなくなり、1ヶ月も待機状態になりました。しかし先生方が手を尽くし、剣道を再開できる場所を探してくださいました。そこは家から30分も離れた体育館でしたが、私はそこで剣道を始めることができたのです。また、その間にも先生方の元へは日本中から剣道の防具が送られてきていました。私は人ととのつながりの大切さ、そして助け合うことの素晴らしさをこの時、実感したのです。

二つ目は、たこ焼きキャンプとの出会いです。これは、東日本大震災に伴う原発事故により、野外活動を大きく制限された子ども達のための避難キャンプです。兵庫県で行われるこのキャンプは、外で自由に遊ぶ機会を無くしてしまった福島の子ども達を県全体で受け入れてくださいました。主催であるマスターを中心に、福島の子ども達を助けたいという学生ボランティアやスタッフの方々が協力してくださいました。約2週間、私達はスタッフの方々と寝泊まりをしながら野外活動や海水浴など、福島ではできなかった活動を思いきり楽しみました。スタッフの方々とは今も交流があり、2年前には私がボランティアとして4年ぶりにキャンプに参加しました。参加していた子ども達は小学4年生以下の子ばかりで元気一杯だったのですが、帰宅を前に皆が泣き出していました。私は自分がキャンプに参加した当時の気持ちを思い出しました。子ども達の涙の裏には、1人で全く知らないキャンプに参加する不安、そしてその思いを丸ごと受け止めてくださったスタッフやボランティアの方々の熱い思い。沢山の活動の中でそんな大きな優しさに触れ、絆が生まれた12日間。そのキャンプが終わろうとしている寂しさと帰りたくないという複雑な思いが隠れているのです。そんな思いが生まれるほど、素晴らしいたこ焼きキャンプとの出会いが私の考えを変えたのです。

東日本大震災から7年。今、この瞬間にも記憶が、思いがだんだんと風化し始めています。私が今住んでいる宮崎でも、大震災のことを詳しく知っている人は身近にほとんどいません。しかし風化させではないのです。福島を忘れず、復興のために今も全国で努力する方々のこと、そして私のように、大震災をポジティブに考えようとしている人がいることを、忘れないでください。

【青年の部 最優秀賞】



笑顔を届けるトマト農家

宮崎県立宮崎農業高等学校 2年

ながい こうき
長井 航希

「航希、今年のトマトも甘えぞ～。」

私の祖父母は、宮崎県高鍋町で大玉トマトを中心に、夏はピーマン・ナス・キュウリ、秋冬にはキャベツ・ハクサイ・ダイコンなど親戚みんなに食べさせたいと様々な野菜を栽培しています。私は、小さい頃から祖父母が丹精込めて栽培した野菜を食べて育ってきました。

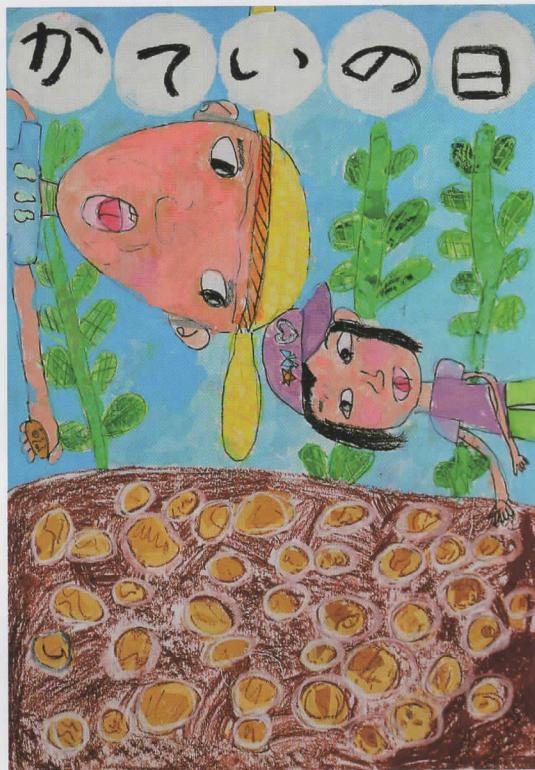
小学3年の夏休み前のことです。太陽の陽射しをサンサンと浴びる真っ赤なトマトを前に、「じいちゃんは、何で農家になろうと思ったの。」と聞いた記憶があります。祖父は「みんなが美味しいように、野菜を食べる姿が楽しみだからよ。」「それに、こうやって野菜を作っていると近所の友達もたくさんできる。」と農業の魅力を話してくれました。何だか楽しそうだな。私は、夏休みの自由研究を「ミニトマト栽培」に決めました。祖父から苗をもらい、ホームセンターでプラスチック鉢と土を購入し、我が家家の玄関先でミニトマト栽培に挑戦したのです。定植からしばらくすると小さな黄色い花がいくつも咲きました。しかし、受粉したものは数が少なく、果実がオレンジ色になりかけた頃には亀裂が入り収穫できたのは、わずか7個足らずでした。「どうして？」祖父が栽培するトマトを前に、私の胸は疑問と悔しさで溢れかえりました。あれから6年、当時の疑問と悔しさが私を、宮崎農業高校生産流通科に導いてくれました。

初めは、祖父の楽しそうな笑顔に惹かれ興味を持った農業でした。そして、面白そうだと挑戦した家庭菜園で味わった悔しさが、いつのまにか「農家になりたい」という私の目標に変わっていました。学校での学習を通して、農家になりたいという私の決意は、日々大きくなっています。農業と環境や野菜の授業、そして総合実習などを通して、「有機農法」や「残留農薬」、「6次産業化」に「GAP」など初めて耳にする言葉にワクワクしながら毎日を過ごしています。そのような日々の学習を通して、わが国の農業は、高齢化や後継者問題を背景にAI技術（人工知能）が採用され始め大きく変わろうとしていることを知りました。昨年には、遺伝子組換え操作によって受粉しなくとも実がなるトマトが開発されています。祖父のハウスでは、受粉用のマルハナバチが飛び回っており、天窓は全て手動です。かん水や薬散といった管理作業には労力を必要としています。今の設備では、正直「飯を食っていくのは難しいぞ」と聞かされています。祖父の後継者として、栽培規模を拡大し品質の向上を目指す私には、まだまだたくさんの知識が必要です。今、学校では「JGAP」や「ひなたGAP」という言葉をよく耳にするようになりました。GAPとは、農業において、食品の安全や環境の保全を持続するための生産工程管理の取組みのことです。この認証を受けることで消費者からの信頼を得ることにつながります。私は、このGAP認証に挑戦したいと考えています。「みんなが美味しいように食べる姿が楽しみだからよ。」あの祖父の言葉の意味がよく分かるようになりました。

祖父と私、生きる年代も農業を取り巻く環境も違いますが、農業に魅了される理由は、どうやら同じようです。次は、私の番です。

「じいちゃん。このトマト食べてん。今年のトマトも美味しいぞ。」食卓に笑顔を届けるトマト農家を目指します。

「家庭の日」「少年の日」ポスターコンクール最優秀賞受賞作品紹介



宮崎市立広瀬北小学校 1年
郷田ひまりさん
テーマ「ころころ おいも」



日南市立飫肥小学校 5年
濱崎月乃さん
テーマ「自然の中でたくさん遊ぼう」

「家庭の日」「少年の日」ポスターコンクール入賞者

	賞	氏名	学校名	学年		賞	氏名	学校名	学年
家庭の日	最優秀賞	郷田ひまり	宮崎市立広瀬北小学校	1	少年の日	優良賞	福重知花	宮崎市立宮崎西中学校	3
	優秀賞	岩切理花	宮崎市立大淀小学校	4			高橋千佳	延岡市立東海中学校	3
		水元研伸	高千穂町立高千穂中学校	2			中島み咲	宮崎学園高等学校	1
		松口梨乃亜	県立佐土原高等学校	2			渡部璃南	県立宮崎商業高等学校	2
		松下奎心	宮崎市立大久保小学校	1			渡邊奈々	県立妻高等学校	3
		中原姫渚	日南市立飫肥小学校	2		最優秀賞	濱崎月乃	日南市立飫肥小学校	5
		坂口睦貴	宮崎市立住吉南小学校	3		優秀賞	生駒陽菜	都城市立山之口中学校	1
		椎葉蘭丸	椎葉村立小崎小学校	3			原侑里	県立佐土原高等学校	1
		郷田こころ	宮崎市立広瀬北小学校	4			横山雅姫	県立佐土原高等学校	2
		濱山凌央	宮崎市立潮見小学校	5			富田夏奈	宮崎市立加納小学校	4
		松下瑚菜	宮崎市立学園木花台小学校	5			太田美海	宮崎市立田野小学校	6
		今重凜	宮崎市立広瀬北小学校	6			瀬戸口麗	宮崎市立加納小学校	6
		満留遙香	西都市立妻南小学校	6			内田彩未	日南市立飫肥中学校	2
		白高絢音	日南市立飫肥中学校	1			合田ゆめ	宮崎市立宮崎西中学校	3
		土藤結梨	高千穂町立高千穂中学校	1			赤木理樹	小林市立永久津中学校	3

「家庭の日」「少年の日」ポスターコンクール優秀賞受賞作品



宮崎市立大淀小学校 4年
いわきり りか さん
岩切 理花 さん



高千穂町立高千穂中学校 2年
みずもと けんじん さん
水元 研伸 さん



宮崎県立佐土原高等学校 2年
まつぐち りのあ さん
松口 梨乃亞 さん



都城市立山之口中学校 1年
いこま はるな さん
生駒 陽菜 さん



宮崎県立佐土原高等学校 1年
はら ゆり さん
原 侑里 さん



宮崎県立佐土原高等学校 2年
よこやま あい さん
横山 雅姫 さん

「家庭の日」・「少年の日」ポスターコンクール入賞作品展示



県庁本館 1階



「家庭の日」・「少年の日」
ポスターコンクール入賞作品
の展示を実施しました。

入賞作品については、宮崎
県青少年育成県民会議のホー
ムページにも掲載しています
のでご覧ください。



イオンモール宮崎



宮崎県青少年育成県民会議

検索



宮崎県メディア安全指導員養成講座の取組



日章学園での全校生徒と職員を対象とした講演



天竜保育園での保護者と職員を対象とした講演

宮崎県では、乳幼児や成長期の青少年に与えるメディアの影響、そしてその対処法などを啓発する「宮崎県メディア安全指導員」を県内全域に派遣しています。

子どものメディア（テレビ・スマホ・ゲーム機・インターネット等との接触の現状や問題点、具体的な対応策などを、各小・中・高・特別支援学校での授業、幼・保・学校のPTA家庭
教育学級、公民館や行政機関の研修等で講話や講演を行います。詳しくは、宮崎県庁
または宮崎県青少年育成県民会議のホームページから「メディア安全指導員」と検索
するか、右側のQRコードからアクセスしてください。



「青少年の主張宮崎県大会」～作文募集～

1 募集対象・期間 中・高・特別支援学校の生徒を対象に主張作文の募集を5月～
6月に行います。ふるってご応募ください！詳細は各学校の
先生にお尋ねください。

◆少年の部（中学生）の最優秀賞受賞者は、「少年の主張全国
大会」（東京都）での発表または出席をすることになります。

2 開催日時 2019年8月7日（水） 13:00～

3 開催場所 宮崎市民プラザ・オルブライトホール

「家庭の日」「少年の日」ポスターコンクール作品募集

1 募集時期 2019年 夏休み明けの9月（募集案内は6月）

2 募集対象 小・中・高・特別支援学校の児童生徒

※ 入賞者には図書カード、応募者全員に参加賞を進呈

※ 詳細は各学校の先生にお尋ねください。